

**第 3 期下野市地域福祉計画
第 3 期下野市地域福祉活動計画**

住民懇談会 報告書

令和 3 年 10 月

下野市社会福祉協議会

目次

I. 住民懇談会の概要.....	1
(1) 目的.....	1
(2) 実施概要.....	1
II. 住民懇談会の進め方.....	2
(1) 深めるチーム.....	2
(2) 広げるチーム.....	4
III. 住民懇談会の結果.....	6
(1) 深めるチーム.....	6
(2) 広げるチーム.....	16

I. 住民懇談会の概要

(1) 目的

国から示された「市町村地域福祉計画策定ガイドライン」における「地域福祉計画策定上の留意点」の中で、住民の主体的参画が必要であることが示されている通り、地域福祉の推進には、地域で活動されている皆様のご意見を伺い、計画へと反映していくことが必要不可欠です。

今回の住民懇談会については、地域で活動している市民の方から、地域の現状や課題、地域を良くするためのアイデアなどをお聞きし、第3期下野市地域福祉計画及び地域福祉活動計画を策定するにあたっての基礎資料とすることを目的として実施しました。

(2) 実施概要

	深めるチーム	広げるチーム
対象	普段地域で活動されている方や地域福祉分野に携わっている方	大学生等を中心とした若い世代の方
日程	8月2日 午前10時～正午 ※当初8月11日に第2回を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、第1回の際に第2回で予定していた内容を一部行い、追加で書面での意見を提出いただきました。	8月29日 午前10時～正午
手法	対面開催	オンライン開催
参加者数	18名	18名

II. 住民懇談会の進め方

(1) 深めるチーム

①開始時間まではクイズでアイスブレイク！

開始までの待ち時間には、グループの中で下野市に関するクイズに挑戦していただきました。

グループで、クイズに挑戦！

問題1 下野市特別住民・下野市観光大使のこのゆるキャラの名前は？

知ってるかな？

①しもつけ大使
②カンピョウ
③カンピくん

問題2 下野市で生活していて「幸せ」だと感じる人はどれくらいいる？

(市民意識調査結果より)

① 😊😊😊😊😊 下野に住む人全員！！

② 😊😊😊😊😞 5人中、4人が幸せ

③ 😊😊😊😞😞 5人中、3人が幸せ

問題3 下野市の人口は、約60,000人です。10年後にはどうなる？

① 🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑 今と変わらず 約60,000人！

② 🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑 少し減って・・・ 約57,000人

③ 🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑 そんなに減る?! 約53,000人

問題4 地域活動 (e.g. NPO, ボランティア) に参加している人はどれくらい？

(市民意識調査結果より)

① 🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑 5人に2人くらい (約4割)

② 🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑 3人に1人くらい (約3割)

③ 🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑🧑 5人に1人くらい (約2割)



②地域の状況の共有

はじめに、事前ワークで書いてきていただいた「地域の課題や状況」について、発表していただきました。

全員の発表が終わったら、紙から切り取って、模造紙に貼り付けました。

また、時間があるグループは、まだ出ていない課題や書き忘れていた課題についてフセンに追加で出していました。

1 ふれあい、支え合い、助け合いの輪が広がる地域づくり

この冊子に支え合う地域づくりを推進するために、子どもや成人、高齢者、障がいのある人など地域に暮らす全ての市民が、ふれあい、交流できる機会の充実に努め、住民同士の支え合いにつながる地域づくりを推進します。

例えばこんなこと...

「計画書「私たちが取り組むこと」から抜粋 要約

「ふれあい交流の促進」
...進んでいきつつありましたか？ 世代間での交流ができましたか？
サロンなどの交流はどうでしょうか？
「地域交流の場となる拠点づくり」
...地域のイベントに楽しんで参加できましたか？ コミュニティセンターや公民館は活用できましたか？
「地域を支え育むコミュニティづくり」
...自治会に積極的に参加できましたか？ 地区社協の組織作りへ参加できましたか？
「支え合いネットワークの充実」
...向こう三軒両隣の関係づくりを進められましたか？
「お互い様」の気持ちを持って見守り活動に参加できましたか？

自由に書きください

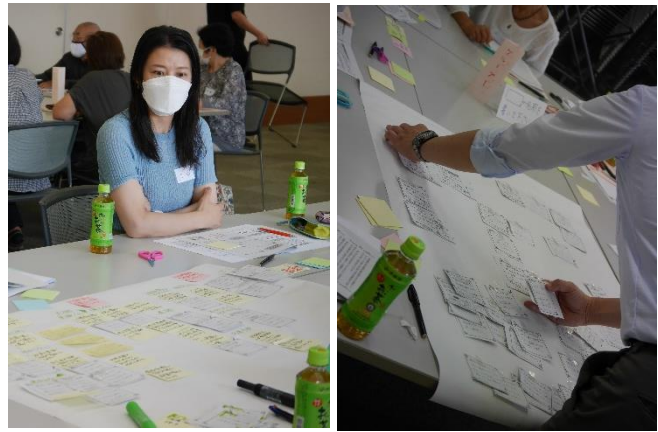
※且、議題外に記入していただきますので、内容はなるべく大きめはつきりとお書きください

他にも意見がある方は、追加記入いただければと思いますので、メモしておきましょう



③模造紙の整理

皆さんからいただいた地域の課題を、模造紙上で似た者同士を集め、整理しました。



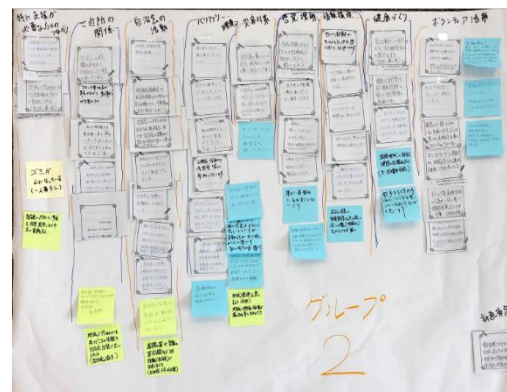
④解決のアイデア出し

整理された課題について、どのような解決アイデアがあるかを考えていただきました。

フセンの色を分け、地域でできることと、市や社会福祉協議会にお願いしたいことにわけています。



※完成した模造紙

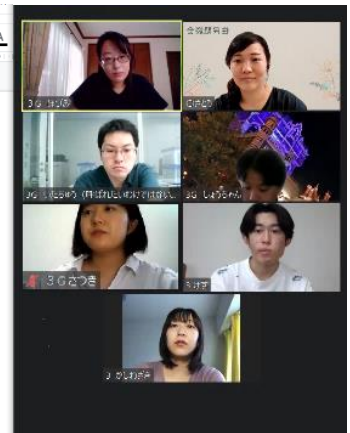
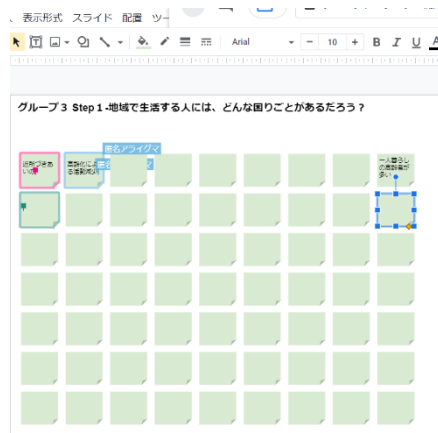


(2) 広げるチーム

Step 1-地域で生活する人には、どんな困りごとがあるだろう？

地域の生活で、自分や家族が困ったことや、困っている話を聞いたり見たことがあることについて、オンライン上のフセンに書き出していただきました。

書いた意見を共有しながら、簡単に似た意見をまとめて整理しました。



Step 2-登場人物をつくってみよう！

Step 1 で出た意見をみながら、「登場人物」をつくりました。

名前や年齢なども考えることで、よりリアリティをもって地域の困りごとを考えることができました。

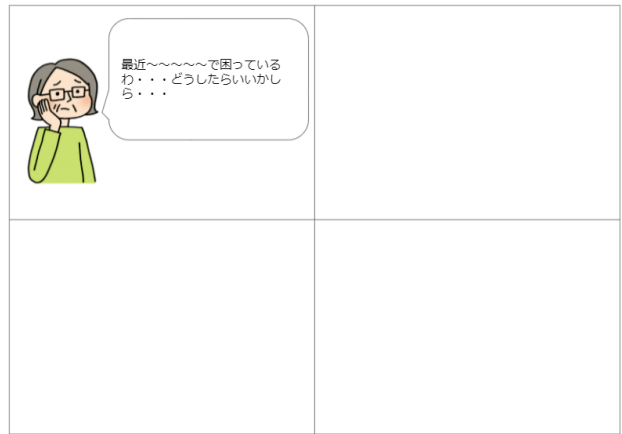
	名前	性別	年齢
	職業	家族構成	
	普段の生活	地域での困りごと	

Step3-困りごとの解決には何があるとよい？

Step2の登場人物が困っていることについて、どうやって困りごとを解決できそうか考えてみました。

解決ストーリーを、4コマ漫画の形で完成させました。

グループ1



Step4-自分にもできることがあるだろうか？

完成したストーリーをみながら、「自分ならどんなことができるだろう？」を考え、各自チャットに書き込んでもらいました。

他のグループの内容をシェア！

各グループの4コマ漫画を発表していただきました。

最後は集合写真を撮って終了です！



Ⅲ. 住民懇談会の結果

(1) 深めるチーム

グループ1			
グループ1 項目名	課題	地域でできること(していること)	行政・社協にお願いしたいこと
基本目標1 ふれあい、支え合い、助け合いの輪が広がる地域づくり			
地域における人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ○プライバシーのため、あまり深く入れない。 ○人間関係が希薄になっている。 ○班内の交流は充分に出来ているが、年齢差は出ている。 ○若い方の参加を望むが声掛けに戸惑っている。 ○地域の催しに出たいが嫌な顔をされ子どもが仲間に入れなかった。 ○コロナであまり活用できない。 ○見えないふりをしてしまう。 ○ほとんどが車移動。近所の方々ともあまり会う機会がない。 ○近所の事はできるだけ気をつける様にはしているが、なかなか思うようにはできない。 ○機会があれば地域の方の相談に乗れればと思うが、私自身多忙を言い訳にしている所がある。 ○地域での支援を必要とされる方の情報の収集(ただし個人の尊厳を守ること)。 ○コロナ禍のときであり外出自粛、地域の行事の中止、制限もあり人との交流ができない。 ○どこに困った人が居てどんな支援が必要か把握出来ていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域のリーダー的な存在になる。 ○近隣との関係を深める(顔を合わせたときなどのあいさつ、一人暮らしの方への声掛け)。 ○外出出来ない人の話し相手になる。 ○車イスの利用の仕方や、高齢者や障がい者の方への対応の仕方に関する勉強に参加する。自分で体験すると、気がついたことが多々あった。 ○三軒両隣に、高齢のみの2人以下世帯が5軒あるので、積極的に声をかけている。 ○民生委員の活動の一環として、高齢のみの2人以下世帯へ重点訪問活動。 ○一人暮らしの方への外からの見守り(わざとでなく気にかけてあげる。顔を見かけたら声掛け)。 ○地域の困りごとは、地域で解決できるよう、自治会での取り組みをする。 ○あいさつやかたんな会話、子どもへの声掛けをする。 ○自家用野菜等近所の家にも分け合う。 ○朝の散歩時、すれ違う人(ほとんどが学生)にあいさつをする。返してもらうと、とてもうれしく思う。 ○自治会会員の交流と触れ合いを第一に、顔合わせをしている。 ○自治会(執行部、班長、育成会)との連絡を取り、総会において話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動者が信頼され、地域で受け入れられるように、活動内容の証明ができるような仕組みが必要。 ○自治会での取り組みの中で、高齢者世帯や一人暮らしの方への配慮をする。(あいさつ、声掛け、困りごとなど) ○新しい自治会と古くからある自治会の活動参加の度合いや違いを改善してほしい。新しい所は市や地区の行事に全くといっていいほど無関心。又、新しい所の方が参加すると「誰?」という目線が強い。

グループ1 項目名	課題	地域でできること(していること)	行政・社協にお願いしたいこと
サロン・集まれる場 や活動	<ul style="list-style-type: none"> ○サロンの参加者が限られており、もう少し広めたい。 ○地域にふれあいサロンなどの集まれる場所がなく、孤立されている方も多いのではないか。 ○健康推進事業の参加は限られた人のみになっているのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○サロンに出席する。 ○各地区にある生活支援体制整備事業第2層協議体の活用と活動の推進(民生委員、商工会、老人会、サロン、自治会長などのメンバーがいる)。 ○認知症カフェサロンを運営し、月1回オープンする。 ○認知症シルバーサポーターの活動(オレンジカフェ・ゆうゆう茶屋)を行う。 ○集団ラジオ体操の実践を増やす。 ○同年代の人と週1回卓球をしている。とても楽しい。 ○インディアカグループで週2回各2時間、70代が中心の10人で活動している。 ○サロンでの集会に協力する。 ○当番の顔役の人が体操、グランドゴルフ、輪投げなどを楽しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○サロンによって、利用する場所の負担や光熱費の負担をしているサロンがある。現在の補助額では、場所利用料金と光熱費になってしまい、会員同士の研修、勉強会、交流に伴う経費の負担がある。せめて、場所や光熱費の負担について、考えていただけたらと思う。補助金制度があると思うので、これから再考いただけたらと思う。
基本目標2 安全・安心な暮らしやすいまちづくり			
防災	<ul style="list-style-type: none"> ○現在、家具の固定等実施中だが、休日に少しずつなので思うようには進まない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○防災への心掛けは常に備えていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○近所に空き家があり土地の所有者がわからないので調べてほしいがプライバシーで教えられないと言われた。草が生えているので何とかしてほしい。
高齢化	<ul style="list-style-type: none"> ○私の自治会の高齢者(1人～2人世帯)の平均年齢は79歳になっている。今後、平均寿命からみて、多様な対策が必要だと思う。 ○かつては老人会で活動していたが、代表が亡くなってから消滅。後継者がいない。リーダーのなり手がない。 ○地域の神社の総代が、各自治会の負担になっている。現総代、自治会長等が、頼み込んで確保している。今後は難しい。 ○これからは、元気な高齢者が、役割を持って活躍できる場があるといい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○私の自治会のエリアには75歳以上の後期高齢者が10人いる。民生委員児童委員がもう少し動いてほしい。 ○とちぎ生涯現役シニア応援センター(ぷらっと)を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の元気な高齢者への役割や活躍の場の提供(自治会内での見守りの活動の取り組み)。 ○中高年の方へ自治会内の見守りや声がけなどの活動を依頼する。

グループ1 項目名	課題	地域でできること(していること)	行政・社協にお願いしたいこと
基本目標 3 地域福祉を推進するためのしくみづくり			
情報の入手	<ul style="list-style-type: none"> ○自分から情報を得る努力はしていない気がする。 ○集団検診の申込み方は一考するほうがよいと思う。電話とネットでは、なかなか申し込めない方もいるのではないか。 ○広報紙や回覧板等では限度があり、ネットを思うように使用できない者には何か考えてもらえたらと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ○広報紙や社協だよりを良く読んでいる。 ○成年後見制度の利用手続きを済ませた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○支援を必要とする人が、必要とする時に直ぐに利用出来るよう、情報が手元に有るようにする(普段は拒絶していても時には必要)。 ○カタカナ、英語(特に料理や菓子など)が多いと伝わらないこともあるので、広報紙などは注釈に読み方やふりがなをつけて対応することが必要かと思う。
相談について	<ul style="list-style-type: none"> ○相談したい時になかなか機会がなく、ただただ一人で悩むというような事がない日が来ればと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域包括支援センターや市役所に相談する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○困った時に手助けする仕組みはできているようだが、その制度を使いたい時に急には使えなかったり、誰に頼んでいいかわからなかったりなどと、活用しきれないこともあるので、何とかしてほしい。 ○本当に必要な人に手を差しのべられる行政。
ボランティアや支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティアは参加していますが積極性には欠けている。 ○地域自治会内でのボランティアができる人材を育成する。 ○ボランティアなどに関心はあるものの日々の生活に追われて中々参加できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者の困りごとに対処するボランティアである和む会のメンバーになっている(支援内容:家事一般、介助、日曜大工、手伝い)。 ○国分寺地区での有償ボラの紹介や利用の仕方について話してあげる(チラシの利用)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○会員の皆様のこまり事に対してできるだけ協力する。

グループ2

グループ2 項目名	課題	地域でできること(していること)	行政・社協にお願いしたいこと
基本目標1 ふれあい、支え合い、助け合いの輪が広がる地域づくり			
自治会の活動	<ul style="list-style-type: none"> ○自治会で道路清掃や神社清掃を行っている。 ○災害等が起きた時に初めに動くのが社会福祉協議会や自治会組織であるにもかかわらず、それを知らずに必要ないと言う人が増えている。 ○自治会への加入からが私たちが取り組む一歩だが自治会の活動が皆に見えていない。考えていくべきだ。 ○自治会の女性だけのつくし会の行事もできなくて残念。 ○自治会の活動が高齢化で鈍化している。 ○親の代は自治会に加入していたが、親が亡くなり子どもは独身で自治会を退会し交流が無くなり心配している。 ○自治会の行事(神社のお祭り)が大変なので自治会を退会したいと考えている方がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域で行われている集いの場の情報を、自治会の回覧で出してもらおう。 ○6:30 から定期的に清掃活動を行っている。班長さんが高齢者で、80 歳になったら次の班長さんに交代と考えている。 ○3か月に一度、総務委員会で会員の皆様との連絡や話し合いを行う。 ○コロナ感染により、夏まつり(7月)、敬老会(9月)、運動会(10月)、自治会交流の集い(自治会、班長、育成会)等の自治会内の行事が進まない。会員の皆様との交流が出来ないのが残念。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自治会によって、役員等の選出方法や任期など、それぞれの地域の事情があるが、自治会長の研修会等で、地域住民の交流等の図ることで、高齢世帯や高齢者の一人暮らしの把握に繋がるという事を、周知いただきたい。
ご近所の関係	<ul style="list-style-type: none"> ○年齢が上がり車の運転ができなくなり、サロンなどの関係が薄くなっている。 ○生まれの福島に比べると近所のつながりが薄いと感じる。 ○近所の方に悩みを相談したら宗教に勧誘され、断ったら「不幸になる」と脅された。 ○向こう三軒両隣の関係づくりは、引っ越してきた人にとっては難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分達の自治会にどのような方が住んでいるのか、良い意味で興味を持って生活する。 ○ゴミ出しの時顔を合せたら「おはようございます」のあいさつから。 ○自治会長からの呼びかけにより、あいさつなどから、気かけあう関係を地域、近隣でつくる事ができれば、地域の課題も把握され、地域で取り組むこともできるようになる。 	

グループ2 項目名	課題	地域でできること(していること)	行政・社協にお願いしたいこと
基本目標1 ふれあい、支え合い、助け合いの輪が広がる地域づくり			
特に支援 が必要な 方とのつ ながり	<ul style="list-style-type: none"> ○不登校のお子さんがある家庭があるが、どうしていいかわからない。 ○社会的でない方で、地域とのつながりが薄い方がいる。 ○一人暮らしでゴミが山になっている家がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月の自治会のパトロールについて、防災・見守りなど幅広く実施する。 ○自助の第一歩として、地域で行われているラジオ体操やサロンに参加してみる。 ○自治会長、民生委員との協力により、班長さんから連絡があれば班内に出向くようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○認知症家族に対するアンケート調査を実施し、教室などに参加出来ない理由・家族会などに入らない理由・どうしたら参加、入会できるかを把握する。
基本目標2 安全・安心な暮らしやすいまちづくり			
健康づく り	<ul style="list-style-type: none"> ○健康診断の受診率が低い。 ○若い方でコロナのワクチン接種を受けたくないが、職場の圧力があり悩んでいる方がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○支える側でいられるように、自助の第一歩として体力維持向上の努力をする。 ○健康は自己責任。まず健康診断を受けて自己管理の意識を持つ。 ○市内史跡回りによって健康づくりができるうえ、他地域の様子を知ることができ、参加者同士の交流が深められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○土・日曜日に対応するなど、現役世代に対する健診の仕組みづくりを行う。 ○散歩をする方が多くなり、ベンチを置いていただけないかと思う。
災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ○災害時の福祉避難所についてあまり知られていない。 ○ローリングストック(※)のやり方を教えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分達の暮らしているまちを、ハザードマップ等によってまず知ることが大事。 ○包括支援センターと話し合いながら支部総会を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ローリングストック(※)についての講習会を開いてほしい。
バリアフ リー・環境	<ul style="list-style-type: none"> ○向かいの家の猫が庭に来てこまっている。 ○安全な散歩コースが、もっとあったらいいと思う。 ○バリアフリーについて役員として取り組んでいるが、もう少し推進してほしい ○ゴミステーションがカラスに荒らされる。特に燃やすごみの日は生ごみがまき散らされる。 ○ゴミ出しについて、班の方達はきちんと守っているのだが、朝など通勤の方がポイ捨てしている様だ。 ○自治医大駅西口側の線路沿いの道路は、歩行者対自転車や自転車対自転車の事故が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○防犯により地域環境を良くすると、地域の地価価値が高くなる事を知るべき。 ○公民館活動や清掃等にみんなで参加する。 ○ゴミを間違っって出す人がいるので、困っている。毎日パトロールに回っている。 ○バリアフリーについて、車いすで1人では登れない箇所があり、もう少し段差が低ければいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○道の駅周辺の夜の治安を強化してほしい。 ○自治医大駅西口側の線路沿いの道の安全対策。 ○自治会でも道路清掃をしているが、自治会にもかぎりがあるので、行政でもやってほしい。

※ローリングストック：普段から少し多めに食材等を買っておき、使った分だけ新しく買い足していくことで、常に一定量を備蓄しておく方法

グループ2 項目名	課題	地域でできること(していること)	行政・社協にお願いしたいこと
基本目標3 地域福祉を推進するためのしくみづくり			
啓発・理解・情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍での障がい児者への具体的な対応が課題になっている。 ○ヘルプマークへの理解が深まっていない。 ○目にみえない障がいへの理解が深まっていない。 ○障がいのある方がマスクを着けることができず、外出を控えてしまう。 ○福祉の横のつながりが大切だと思う。 ○行事がなくなることで認知していただく機会が減っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○サロンにおいてサービス利用などの情報提供を行う。 ○エールや市広報紙などから今ある制度を知って、生きがいづくりに関心をもつ。 ○生きがいづくり支援として障がい者スポーツの練習をしている。 ○サロンにてお茶会をするなど、多種多様な方の話し合いの場を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本日の様に多種多様な方の話し合いの場(共有化)をつくることが第一。 ○障がい者福祉を充実させてほしい。 ○支援を必要としている人の支援の内容がわかるようボランティア団体の方との交流を持つ場を設けていただきたい。 ○助けが必要な人と助けようとする人とのマッチング。
ボランティア活動	<ul style="list-style-type: none"> ○小山市の方が地区の高齢者がお囃子会やそば打ちの講習会で指導してくれると言っていた。世代間の交流があり良いと思う。 ○調査結果によると「困った人がいたら手助けできる」という人は多いが、具体的なことになると手が上がらない。 ○ボランティア(リーダー)が高齢化しており、地域を支える人達が継承できなくなっている。 ○ボランティア等各種団体の人達が一同に集って情報交換することが大事(全市的共有)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○商工会が女性部で花いっぱい運動をしている。 ○親の会として成年後見制度の研修会等を数回行ってきたので、続けていけたらと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○困っている人が必要としている支援(具体的に何をしてほしいか)と、ボランティアでできる具体的な内容の両方について、社会福祉協議会が要となって吸いあげて、マッチングしてほしい。 ○学校ボランティアについて、学校がしてほしいことが知りたい。 ○ボランティア団体と支援を受ける方の発信する情報を双方に知らせる方法のあり方の検討。
計画全体			
計画全体			<ul style="list-style-type: none"> ○基本目標それぞれで、自発性、予備知識を得る努力、制度を知る努力など、自助の考え方を強化してほしい。

グループ3

グループ3 項目名	課題	地域でできること(していること)	行政・社協にお願いしたいこと
基本目標1	ふれあい、支え合い、助け合いの輪が広がる地域づくり		
あいさつ 返事ない (日頃の 近所付き 合い)	<ul style="list-style-type: none"> ○道路で会ってあいさつしても返事がない。 ○世代間であいさつの温度差(度合い)がある。 ○ウォーキング中にあいさつしようとしても、避けられてしまうことがある。 ○散歩している人にあいさつしても、知らん顔する人がいる。 ○外国人に話しかけられると困るので、なるべく目を合わさない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○野菜を沢山頂いた時は近所で分け合い顔を合わせ、一声活動を心掛けている。 ○無視されても笑顔であいさつを続ければ良いのでは。 ○あいさつは笑顔です(無視されてもへこまないで続ける)。 ○親があいさつする家庭は子どももあいさつする。あいさつの大切さを促進する。 	
交流がで きない (行事やイ ベント)	<ul style="list-style-type: none"> ○交流会等に参加しても、いつも同じ参加者で多くの方との交流ができない。 ○地域の中でもなかなか参加出来ない方への勧め方。 ○地域の行事に一緒に行きませんかと声をかけても断られる。 ○老人会の催し物に住民が参加してくれない。 ○関係づくりを進めても自治会、老人会、育成会の催し物と言って参加しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の皆さんが月に2回のサロンに楽しみに参加している。 ○高齢者のサロン活動に参加しない人に対する勧誘の強化。 ○遠くのイベント会場まで行けない方がいるので近くの会場でイベントを実施している。 	
場所がな い	<ul style="list-style-type: none"> ○講演会、講座に参加したいが、場所が遠いとなかなか、参加出来ない。 ○コミセンや公民館は、いつも同じ人(グループ)が押さえていて自由に使えない。 ○空いている施設等を自由に使わせてほしい。 ○講演会や講座は場所がゆうゆう館や国分寺公民館が多いので、お年寄りには交通手段がない。 		<ul style="list-style-type: none"> ○気軽に利用出来る場所作り。 ○身近な場所では小、中学校での福祉活動。 ○公共の場所や、地域の自治公民館、空き家などを利用。但し、高齢者等は、移動手段が難しくなってくることも含め、課題も多い。

グループ3 項目名	課題	地域でできること(していること)	行政・社協にお願いしたいこと
世代間交流	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者と若い世代との隔たりを感じる。 ○先輩、後輩もなく呼びすてにする人が多い。 ○多世代での話し合いの場が少ない。 		
見守り活動	<ul style="list-style-type: none"> ○見守り活動の目的を理解出来てない人がいる。 ○自分の家庭に子どもがいない、卒業したと言って活動をやりたがらない。 ○活動を厳格に考えすぎる人が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の見守り活動の目的を広報し理解を深め参加促進を図る。 	
参加しない (組織作り)	<ul style="list-style-type: none"> ○自治会や団体の役員になりたがらない人が多い。 ○自治会を抜ける人がいるが、それを引き止められない。 ○自治会に入らない人が多く(アパート等)どんな人が住んでいるのかわからない。 ○社協の行事がわからないので、参加したくても参加できない。 ○参加したくても運転ができずいけない。社協の車で送迎してほしい。 ○各地区の運動公園や地域づくりの拠点としてもっと活用してほしい。 ○代表者などになりたくないので役職の決める会議には参加しない。 ○代表や役員になるなら自治会を抜ける方がいる。 ○地域活動にあの人がいるから、あの人が入ったからとやめる人がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○老人会の組織再編。 ○老人会加入の働きかけを強化促進。 ○老人会の地域間の合同催し物(作品展・演芸会など)の開催。 ○老人会組織再編のためのワークショップの開催。 ○社協の組織作りに参画する。 	

グループ3 項目名	課題	地域でできること(していること)	行政・社協にお願いしたいこと
リーダー なり手い ない	○地域リーダーの育成・取り組みを強化する。	○食改のリーダーとして、ボランティア活動、会議にも前向きに協力している。	
活躍の場 づくり・ 参加した くてもで きない	○ボランティア活動に参加したいが、自信がない。 ○人の役に立ちたい気持ちはあるが、具体的にどうすれば良いかわからない。	○シルバー人材センターの活用。 ○レクレーションなど特技のある方に指導していただいている。(手芸)(折紙) ○食生活改善推進員として健康づくり、食育では減塩バランスガイドに取り組んでいる。	
基本目標2 安全・安心な暮らしやすいまちづくり			
日常生活 の支援	○電球の取り替え、草取りが出来ない高齢者が増えてきている。 ○猛暑の中でも家が過ごしやすいのか。熱中症、エアコン、夜の過ごし方など心配ごとが多い。	○各地区にある、有償ボランティアの活。植木の剪定、消毒、草取り、家具の移動、電球交換、買い物、外出支援、掃除片付け、その他、利用者の依頼内容によって対応している。	
危機意識 ない・備 えない (災害へ の対策)	○下野市は災害が少ないと安心している人が多い。 ○下野市は大きな災害は起きないと思っている人が多い。 ○俺は大丈夫と思っている高齢者がわりと多い。 ○特に高齢者で災害に備えている人が少ない。 ○家具やテレビ等を固定したくても、自分ではできない。 ○自然災害の時、家族の安全確認をした後の行動をどうしたら良いかわからない。 ○ハザードマップをわかりやすい所に置いている人が少ない。 ○どこに避難をしていいかわからない人が多い。 ○災害時に避難場所の確認。	○飲み水、食糧の備蓄をしている。	

グループ3 項目名	課題	地域でできること(していること)	行政・社協にお願いしたいこと
道路・交通手段	<ul style="list-style-type: none"> ○市街地の道路は何度も掘り返され、意外にデコボコがある。 ○狭い道路にカラーコーンを置かれ、ゴミ収集車が入れず環境課と建設課にお世話になった。 ○免許返納した人が、移動手段がなくて困っている。デマンド交通を利用する人が少ない。 ○買物に行けない高齢者が増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○介護施設の空時間に車を出してもらい買物に行けない人の手助け。 	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者の催し物に対する移動手段として社協で車を備える。 ○デマンドタクシーの台数をだんだん増やす。 ○福祉タクシーの利用するにあたり詳しく知りたい。 ○免許を返納したが移動手段に困っており、電動車いすでも利用できるデマンド交通があればよい。 ○車の運転出来ない人のために買物支援。
ゴミの出し方・空き家(地域の環境)	<ul style="list-style-type: none"> ○生ゴミの出し方。カラスが袋を破り中身が散乱している。 ○ゴミ出しのルールを守らず、トラブルになることがある。 ○空家が多くなり問題だ。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ゴミステーションを増やし、出しやすくする(区分けが細か過ぎる)。 ○空家問題は行政に解決して頂きたい。
基本目標3 地域福祉を推進するためのしくみづくり			
情報得づらい わかりづらい	<ul style="list-style-type: none"> ○広報紙などカタカナ、外国語が多く理解出来ない高齢者が多い。 ○年のせい、情報を見たり、聞いたりしても、なかなか頭に残らない。 		<ul style="list-style-type: none"> ○困りごとや、暮らしに必要な情報に特化した市内の情報番組(テレビ)の開局。 ○行政目標ではなく、住民にもっともっと寄り添った生の声を。
相談しづらい	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもが親に相談出来ないのに他人に相談出来るわけがない。 ○大人の指示は受けないという子どもがいる。 ○かかれた虐待の発見に力を入れる。 ○成年後見制度について詳しく知りたい。 		

(2) 広げるチーム

グループ 1

Step1 - 地域で生活する人には、どんな困りごとがあるだろう？

障がいのある人の就職先が少ない。

障がいのある子どもを持つ親の仕事を見つけるのが難しい

障がいのある人を雇用するための情報が少ない。

車がないと生活が不便

近所同士で助け合えない人はどうすればいい？

自分たち世代？
ネットの使い勝手悪い

自宅で一人で過ごすのが寂しい

定年後のコミュニティが無い

一人でいるときの災害も不安

親が定年後どうなるんだろう？

車を持っていない人の移動手段

市内のバスの予約が取れない

高齢者がネットにアクセスできない

高齢者家庭訪問
高齢者独居世帯、移動手段がない

買い物に行く時間などの移動手段

単身世帯がコミュニティに参加しにくい

若い世代のうつ病

空き家の管理者が高齢化している・放置されている

高齢者が体調を崩しても周りに家族がいないとすぐに病院に行けない

高齢者、病気の方もいる協力できる

平日昼間のサービスを利用できない

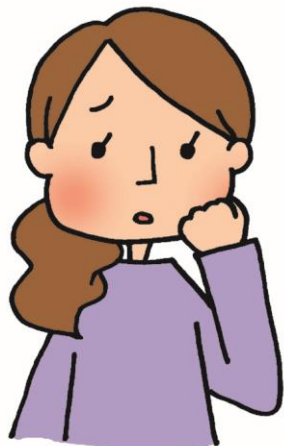
市役所の窓口にも平日はいけない

欲しい情報が出ていない・遅い

インターネットで検索しても出てこない

公式サイトだとPDFしか出てこない

Step2-登場人物をつくってみよう!



名前
小金井 ゆうこさん

性別 女性 年齢 22 歳

職業
大学生

家族構成
両親(働いてる世代)、祖父母(70 代後半)

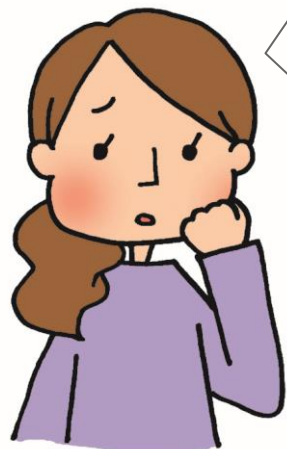
普段の生活

平日の昼間は大学に通う
たまにオンライン授業受ける

地域での困りごと

- ・友人以外とのコミュニティがない
- ・地域にかかわりたいけど、関われない
- ・ボランティアしたくてもどこに聞けばいいか分からない
- ・ボランティアに参加しても高齢者ばかり
- ・活動している大人とつながりにくい
- ・参加してみたら内輪の空気、新規が入りにくい

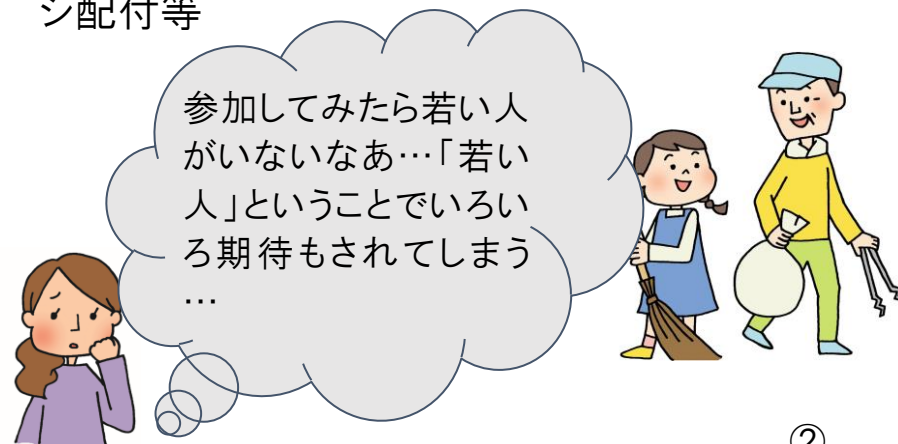
Step3-困りごとの解決には何があるとよい？



地域を知って、自分にできることを知りたいなあ…
そのためには地域活動に参加してみたいけど、どうしたらいいんだろう？

①

SNSなどで市の活動を知れる！
→Instagram、Facebook、大学でのチラシ配付等



参加してみたら若い人がいないなあ…「若い人」ということでいろいろ期待もされてしまう…

②

- ・参加のステップがある
(おためし参加が可能)
- ・参加しているなかで相談したいことを相談できる環境
- ・途中で相談できる人がいる
- ・参加者同士の交流会がある

③

- ・参加し続けられるように、参加する人同士のつながりができる
- ・自分のタイミングで参加しやすい
- ・参加したことで地域とのつながりができる、地域のことを知ることができる



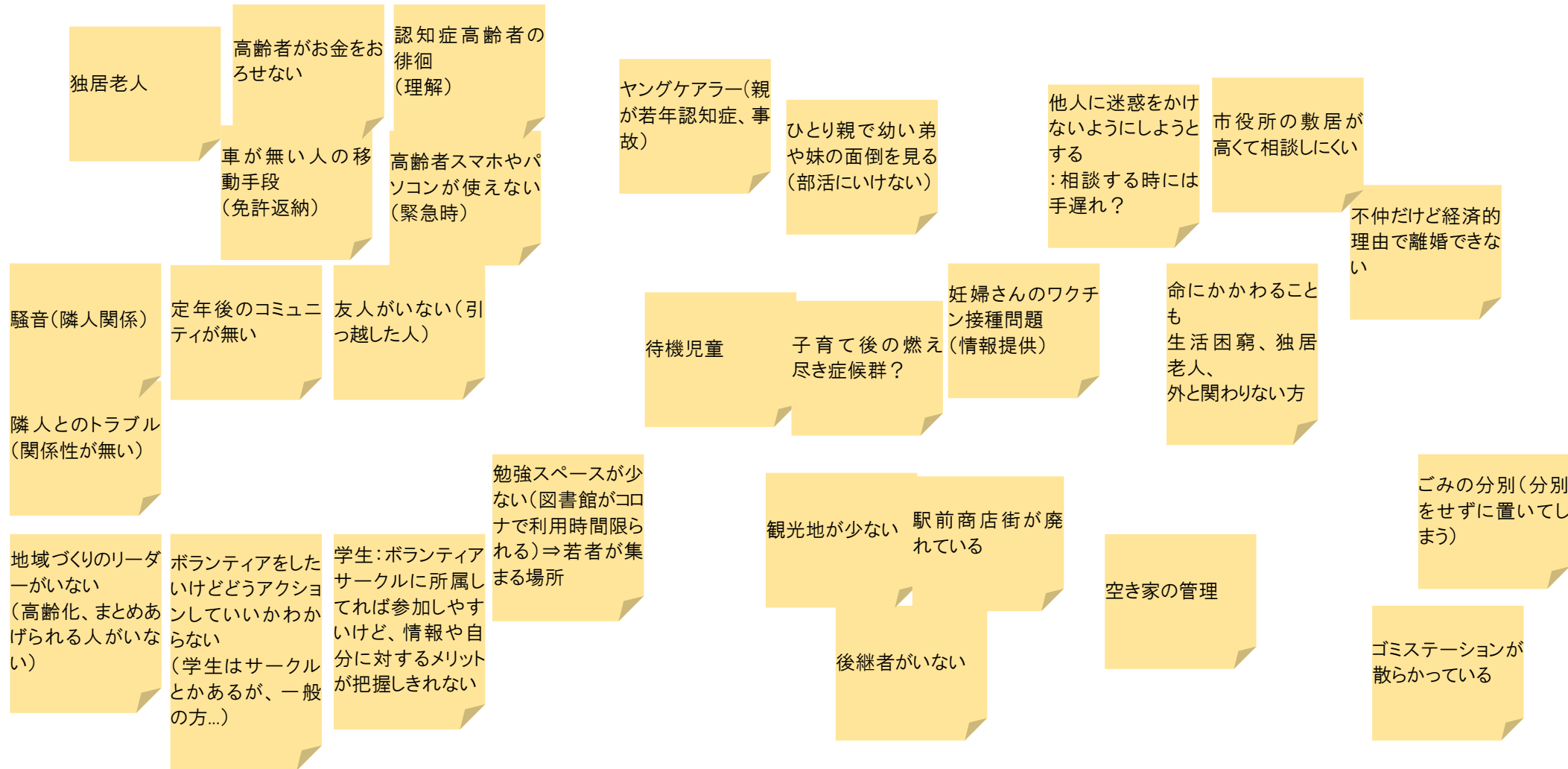
④

Step4-自分にもできることがあるだろうか？

- ◇ ボランティア活動などに参加して、自分のできる事を探していく！
- ◇ ボランティア活動などを通し積極的に地域活動に参加したい。
- ◇ 参加したい地域活動を見つけたら、周りの友人にも声をかけて一緒に参加できるようにする。
- ◇ 若い子が軽い相談をできる「地域の大人(高齢者でない)」になることはできるかも。
- ◇ 自分から、どんな人が活動しているのかやどんなボランティアが行われているのか調べてみる。
- ◇ 学生さんが断りにくくなっているボランティア活動があることを知れました。団体主催者やボランティア派遣元などが、ボランティアする人が困っていないかチェックするのも社会の責任と感じました。

グループ 2

Step1 - 地域で生活する人には、どんな困りごとがあるだろう？



Step2-登場人物をつくってみよう!



名前
松田 みよ さん

性別
女性

年齢
78

職業
無職

家族構成
一緒に住んでる人はいない
息子(50) 茨城に住んでる(クルマで 2h)

普段の生活

病院に行く(自分では行けない)
石橋駅の近く
お散歩(ひとりで、近所の人がいいたら話す程度)
休日 庭で花を植える
週2回くらい、買い物自分の足で
(重たいものは持てない)

地域での困りごと

お散歩のとき交通の安全が心配
買い物のときもっと高齢になったら自力でできるか心配
買い物で買えるものが限られる
同世代の人がホームに入ったり、仲が良かった人が減っていったる
銀行に行くときに遠い(何回も行けない)
何か(災害、病気)あったときにすぐに相談できる人がいない

Step3- 困りごとの解決には何があるとよい？



最近地域で同世代の友達が
少なくなってきたなあ...
趣味の庭いじりも
昔ほど精が出ないよ...

ツイッターで見たけど
石橋のにぎわい広場で
毎朝ラジオ体操やってるん
だって？
最近運動不足だったし
行ってみるか！



情報の出し方を変えたら、
若い人も参加してもらえた

その後、仲良くなって体操の後に一緒に
朝ごはん食べることもあるようになった



庭いじりのお話し
聴いてるうちに
興味出てきたなあ

道具とかあるわよ



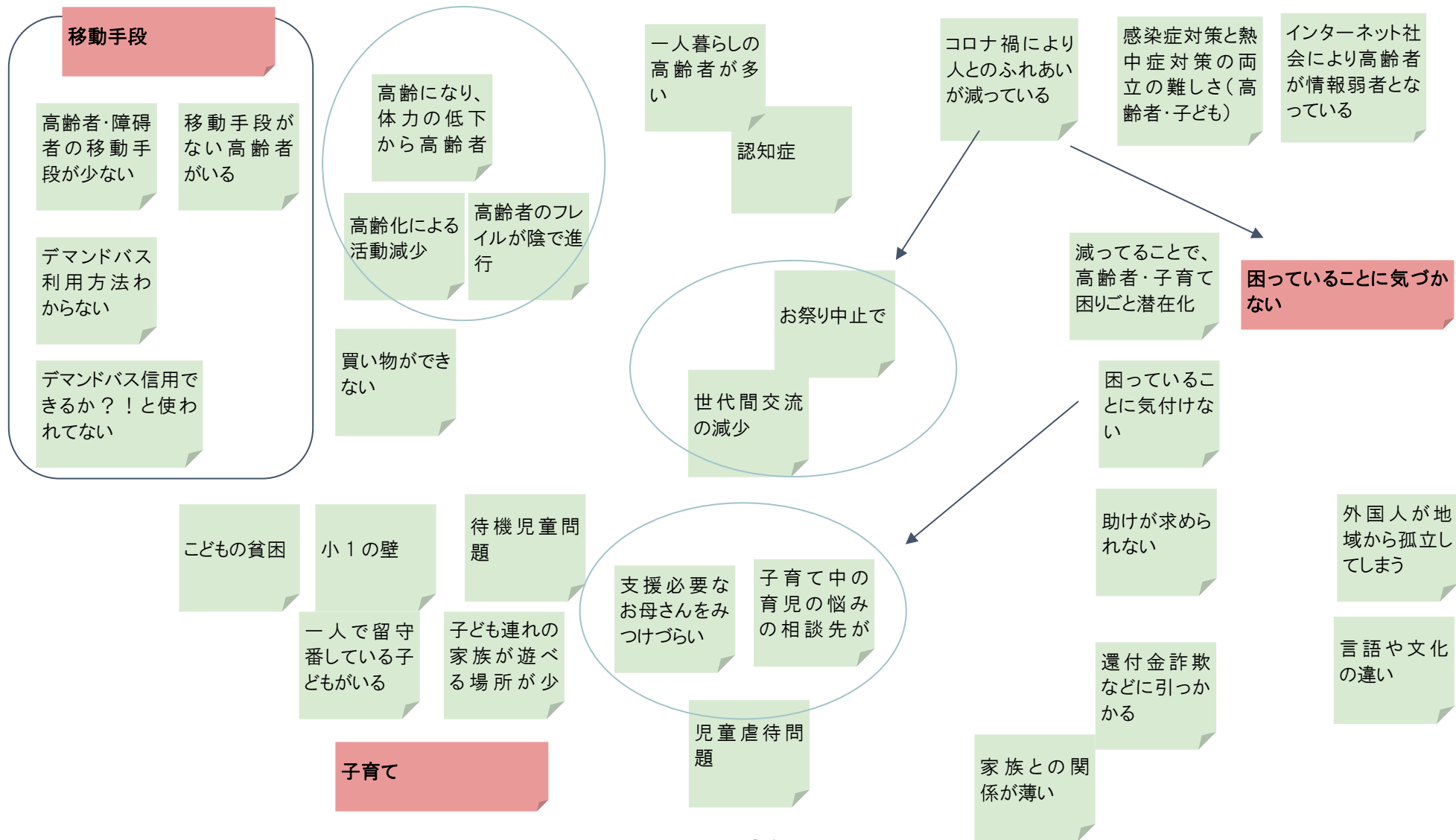
色々なひとと繋がる
きっかけができたし
いざというときにも
安心だなあ

Step4-自分にもできることがあるだろうか？

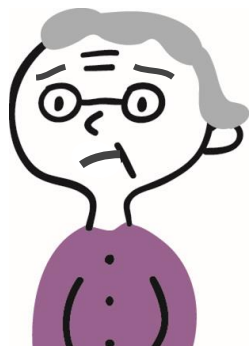
- ◇ 若者と地域がつながる場所をつくる「シモツケ大学」を運営しているので、そのSNSを使って若い人向けに人とつながる場所を小さく細かく広報していけたらと思いました！
- ◇ 地域の人と挨拶ができる関係性から、さらに一步踏み込んだ関係性を築けるよう地域のイベント等に参加する。
- ◇ 同世代だけではなく、別の世代の方々との繋がりを自分から探しに行く。
- ◇ 自分でも参加できそうなボランティア活動を探して、友達と参加してみる。
- ◇ 地域の困りごとを引き受ける便利屋的存在になります！
- ◇ ラジオ体操などの友達などと新しいコミュニティに入り込んでみる！
- ◇ 地域の人と会ったらあいさつをする、地域活動に積極的に参加する。

グループ 3

Step1 - 地域で生活する人には、どんな困りごとがあるだろう？



Step2-登場人物をつくってみよう!



名前
君島 初枝 さん

性別
女性

年齢
87 歳

職業
無職

家族構成
一人暮らし(夫死別)
長男夫婦近所住まい
次男家族は東京

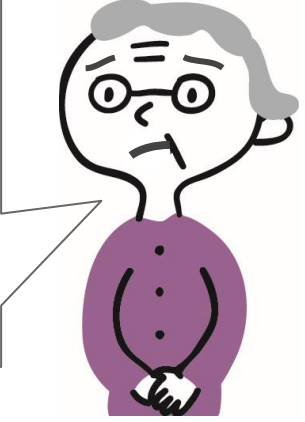
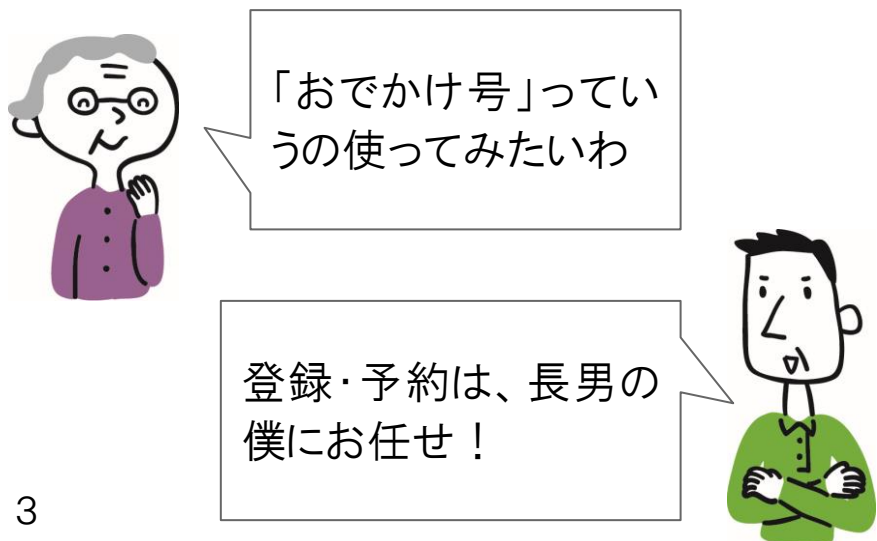
普段の生活

一軒家
朝起きてラジオ体操して畑仕事
高血圧で通院が必要
(足腰ちょっと弱い。シルバーカーで移動)
自治医大へ
自炊はできる。漬物多い
昼寝
近所の方と話したくて、散歩
趣味、絵を描く教室
アクティブ、社交的な性格

地域での困りごと

病院への移動は、長男夫婦が送り迎えを手伝うが、
平日は困っている
デマンドバス使い方わからない
買物厳しい(歩くには程よく遠いくらいのスーパーはある。一回に沢山持てないから少量=毎日行かないといけない)
近所の友だちも高齢で、出てこれなくなっていて、
交流が減ってる。コロナだから余計に難しい

Step3-困りごとの解決には何があるとよい？

<p>足腰が弱ってきたし、車も乗れないから、移動が大変…</p>  <p>1</p>	<p>よく話す近所のお友達から…</p> <p>わしがつかつとる「おでかけ号」がべんりじゃよ。</p>  <p>2</p>
<p>その後、家族と…</p> <p>「おでかけ号」っていうの使ってみたいわ</p> <p>登録・予約は、長男の僕にお任せ！</p>  <p>3</p>	<p>その後…</p> <p>これでおでかけが楽だわ、うふふ！</p> 

Step4-自分にもできることがあるだろうか？

- ◇ 自分の祖母、父母の基礎疾患や心身の健康状態を把握しておき、いざというときの対応を話し合っておく。
- ◇ デマンドバスの予約のお手伝いする。
- ◇ 地域の人に挨拶することや自分や家族が困っていることをほかの人（市の職員や近所の人など）に話してみる。
- ◇ 一旦自分でもデマンドバスを利用してみて、感想や思ったことを発信する。
- ◇ 問題を解決できる手段はあっても知られてもらえない限りは意味がない。周知も同時に必要。
- ◇ 近隣の方の年齢層などを意識して、あいさつなど簡単なコミュニケーションをとってみる。